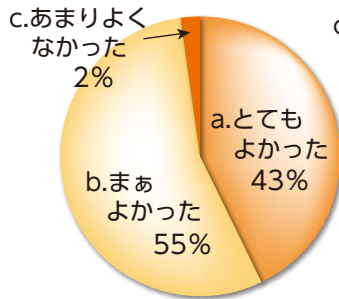


事業&活動報告

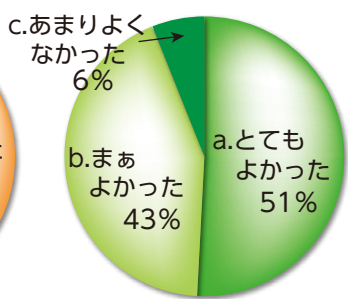
■「千葉市民活動フェスタ2020」参加団体アンケートから ＝新たな形式に向けて＝

オンライン活用という新形式で展開した千葉市民活動フェスタ2020。アンケートでは「よかった」の回答を多くいただき、更に次回への提案、示唆に富むご意見等、誠にありがとうございました。「開催できて良かった」の中に「オンラインだから参加できた」「資料の配架で参加できた」の回答があり、新しい参加の扉が開いた事を感じます。「来場できない人にも団体を知ってもらえた」「当日は他の会場からリモートで参加した」「ウェブサイトで他団体のことをよく知る機会ができた」などメリットは確かにあり、今後もオンラインを併用してはという要望が複数ありました。今回は販売・体験などが全くできず、より満足度の高い開催に向けては一層の調整と挑戦が必要です。

千葉市民活動フェスタ
全体の印象について



特設ウェブサイトの
団体紹介ページについて



フェスタ特設ウェブサイト再公開中！

活動カタログにもなる、団体紹介、ステージ、団体訪問などを再公開しています。
<https://chiba-npo.net/festa2020/>



■「千葉市を元気にするフォーラム」開催報告

1月23日(土)オンライン (Facebook LIVE) で開催し、4つの団体をインタビュー形式で紹介しました。

- ◆地域研究所「若葉区居場所づくり」
- ◆ちばこどもおうえんだん「一人ひとりの子どもが安心して自分らしく暮らせる社会へ」
- ◆千葉いのちの電話「ひとりで悩まずに・・・」
- ◆ウィメンズ・ウィングちば「デートDVって何？」
- ◆ピーナッツクラブ西千葉

「まちのにぎわいづくりをめざして」

この動画は、3月31日まで、千葉市民活動支援センターのFacebook上に公開されていますので、まだの方は是非ご覧になってください。



ミニコラム

ちばさぽの風 vol.42

わかちあい・まじりあい・つむぎあい

1年前のちばさぽ通信(2020年3月号)の事業報告の写真には、見事に(?)三密状態なものが見られますが、その直後から当センターでも、オンラインを取り入れて講座や会議等を行うようになりました。未だに慣れない部分もありますが、最近では、オンラインの効果も実感するようになってきました。そこで、オンラインと対面それぞれのメリット・デメリットを、「わかちあい」「まじりあい」「つむぎあい」の3つの視点から論じてみたいと思います。

○わかちあい(分かち合い)

一口に「わかちあい」と言っても、気持ちや痛みを“分け合う”という意味と、モノやコトを“共有する”という意味の二通りがあります。前者は、対面の方がより深い「わかちあい」ができるのは間違いありませんが、オンラインを活用すれば、離れた場所にいる人同士でも「わかちあい」が可能になります。後者は、例えば資料などのデータを会議中でも簡単に共有できるといった点で、また例えば参加者の感想をチャットなどの機能で入力してもらえば、参加者全員での「わかちあい」も可能になるといった点で、オンラインにメリットがあります。「深くわかちあう」なら対面、「広くわかちあう」ならオンラインがお勧めです。

○まじりあい(交じり合い)

意見交換という「まじりあい」はオンラインでも可能で、特に参加者をグループに分ける場合、対面方式と違って、会場の広さや設備を気にしなくてよいのがメリットです。一方で、発言のタイミングがつかみにくく、空気感も伝わりにくいので、表面上の意見交換にとどまることが多く、「熱い議論を交わす」にはオンラインは不向きでしょう。さらに交流という点では、対面なら、会議の終了後、名刺交換をしたい相手に近づいていくこともできますが、オンラインだとそういったことは難しく、交流が進みにくいのも難点です。もちろん目的によりませんが、「まじりあい」はオンラインと対面とで一長一短というところでしょうか。

で、表面上の意見交換にとどまることが多く、「熱い議論を交わす」にはオンラインは不向きでしょう。さらに交流という点では、対面なら、会議の終了後、名刺交換をしたい相手に近づいていくこともできますが、オンラインだとそういったことは難しく、交流が進みにくいのも難点です。もちろん目的によりませんが、「まじりあい」はオンラインと対面とで一長一短というところでしょうか。

○つむぎあい(紡ぎ合い)

参加者の思いを集め、つなげて、何かしらの形をつくるという創造的な作業を「つむぎあい」と呼ぶなら、これは圧倒的に対面に軍配が上がるでしょう。市民活動団体は、メンバーの力を集めて活動することが目的達成のために欠かせません。もし代表者など一人の力に頼っていたとしたら、それは健全な市民活動ではないと思います。そういった意味でも、顔を突き合わせた「つむぎあい」の積み重ねが市民活動の根幹で、この積み重ねにより団体は育っていくのではないのでしょうか。もちろん対面が困難でも、オンラインでの「わかちあい」「まじりあい」により、「つむぎあい」ができることもあると思います。

○おわりに

人の暮らしや営みは「対面」が基本であることは、コロナ後でも変わらないでしょう。「オンラインが当たり前」という発想は危険だと考えます。単に人恋しいというだけかもしれませんが、自分は、ネット通販はあまり利用せず、スーパーでも最近では有人レジに並んでいます(^^;(は)